

小笠原周辺海域におけるザトウクジラの基礎調査と普及啓発から 未来につながる野生動物保全活動のモデルを目指す

特定非営利活動法人エバーラスティング・ネイチャー

エバーラスティング・ネイチャーは、アジア地域の海洋生物及びそれらを取り巻く海洋環境を保全していくことを目的に、1999年8月に設立されました。現在は、インドネシア、小笠原、関東で、ウミガメ類の調査・保全活動の他、小笠原でザトウクジラの調査を行っています。

【活動背景】

ザトウクジラは捕鯨により生息数が減少しましたが、1990年のホエールウォッチングの開始に伴い、食用から観光資源への価値転換が起きました。しかし、現段階では依然として個体群全体に対する保全の意識が浸透していません。海洋生態系において非常に重要な役割を果たすザトウクジラの保全は、地域観光資源の持続可能な利用と地球規模での多様性維持にも繋がります。

【活動目的】

今回の活動は、小笠原周辺海域のザトウクジラ来遊頭数の把握や生態解明調査を通して、個体の保全と生物多様性損失の回復への貢献を目的としています。加えて、人々の保全意識を高めることで、ザトウクジラの持続可能な観光資源としての利用も目指しています。



ドローン画像による親子クジラの体長測定



ボランティア参加者による自船での調査およびマッチング作業の様子

【団体からのメッセージ】

ザトウクジラの個体数やその増減を把握するためには単年ではなく、長期にわたって調査をする必要があります。そのためには必要な器具を揃えることで土台を整え、人々に普及啓発し興味関心を集めることが非常に重要です。本助成によりその基盤を整備することができ、今後も調査を持続させることができ、より発展性のあるものになりました。

【本助成金の活用用途・活動結果】

助成金は主に、個体推定解析に有用な来遊数の把握のための器具備品等に使用していただきました。ドローンの導入により、これまで船上では困難だった正確な頭数の把握や性別判定、幼体と成熟個体の判別が可能になりました。

さらに、ツアーやボランティアの参加者が目の前にいるクジラの尾びれ写真をアップロードすることで個体情報が受け取れるシステムを導入することで、「見る」だけでなく「調査参加型のエコツーリズム」の推進にもつながり、市民の保全意識向上に大きく貢献しました。